

平成29年度 さいたま市立三橋中学校 学校だより



架け橋

第6号

(平成29年8月29日発行)

ホームページ：<http://mihashi-j.saitama-city.ed.jp/>

E-mail：mihashi-j@saitama-city.ed.jp

学校教育目標：ゆたかに・たくましく・かしこく

「克己」

校長 永岡 良規

長い夏休みも終わり、今日から2学期が始まりました。今年の8月は例年と異なり雨の日が多く、東京では連続降水日数21日間という40年ぶりの長雨を記録しました。

スポーツの世界では、陸上のボルトのラストラン、レスリングの世界選手権の金メダル獲得。さらには、バドミントンの奥原希望選手おくはらのぞみの世界選手権初の金メダル獲得など、様々な素晴らしいニュースが届いてきました。毎年私が楽しみにしている甲子園の全国高校野球選手権大会では、花咲徳栄高校が大活躍。埼玉県に初めて夏の優勝旗が届き、その快挙に興奮しました。

私にとって、高校野球の魅力は何と言っても、球児の一生懸命にプレーする姿です。そこには勝敗を越えたレベルでの多くの感動があります。駆け抜けた方が速いとわかっていながら猛然と一塁ベースにヘッドスライディングする選手。最後の最後まであきらめず逆転を繰り返すゲーム展開。スタンドからメガホンを手に勝利を仲間に託し、必死に声をからしながら応援するベンチ入りが出なかった部員たち。今年も多くの球児から感動をもらうことが出来ました。

そして、今年もまた、「一生懸命はかっこいい」ことを甲子園は証明してくれました。それはまた、甲子園出場を夢見て、多くの困難を乗り越えてきた球児だからこそ表現できる感動の姿なのだと思います。

ところで、本校の剣道部員が普段の稽古で忘れないようにしている言葉に「克己心」があります。この「克己」という言葉について、作家の井上靖さんは、「克己とは自分に勝つことだ。非常に難しいが、人間が他の動物と違うところは誘惑や欲望と闘って自分に打ち勝つことが出来るという点だ。勉強も克己、仕事も克己、みな克己だ。」と話していたそうです。甲子園球児たちが「克己」という言葉を知っているかはわかりません。しかし、彼らの多くが甲子園でプレーするまでの道のりにおいて、「克己」の言葉どおり私たちの想像をはるかに超えた自分との闘いを乗り越えてきたことは間違いのないと思います。

みなさんにとって2学期は大きく飛躍する学期です。3年生は自分の進路を切り拓くために、1・2年生は行事や部活動に取り組む中で人として大きく成長するために飛躍する学期です。しかし、その過程で必ず自分に打ち勝たなければならない時がきます。そんな時、この「克己」という言葉思い出してください。そして、この言葉を力に変えて、力強く困難を乗り越えてほしいと思います。